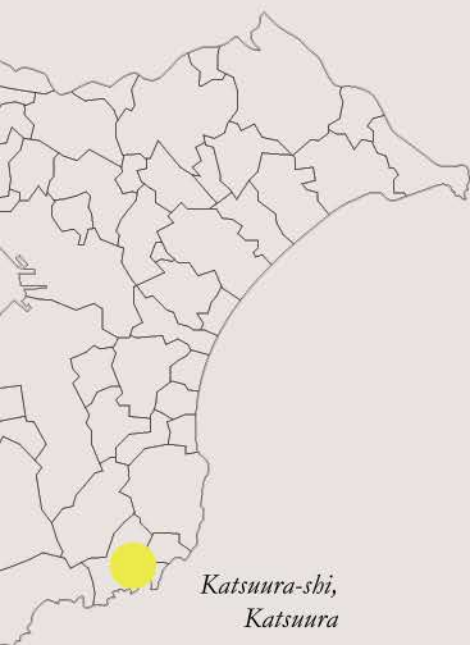


コロナの感染拡大の関係もあり、期せずしてオープンテラス形式のお店が見られる。

個々の建物はあくまで背景で、人の流れを作りだす。集合することで一定の興奮感が醸成される。活気は来訪者の流れと商業者の意欲のぶつかりにより活性が強まる。駐車場の確保、利用客のための公共トイレなども整備されてきた。建物が主役ではなく、カーブした歩道に露店が並ぶ。



▲遠見岬神社の入り口を駆け回る子供

一方24時間で制約のないネットの商業とは対極な形態。時間に制約され、悪天候には開催することはできない。直に新鮮で魅力ある安い商品に振れ、売り手との会話を楽しみながらのいわば、大局的な制約の多い「あきない」の原型が生き残れるか。百貨店という業態は強みの「食」を扱うデパ地下だけが活気が残っている。



▲湾を囲む山並みの地形

湾を囲むように地形が弓なりに形成しビュンビュンと吹きつけ風は波を高めている。  
工事費コスト減、狭まる建築設計者のおかれた環境などを思い、帰りに鯛せんべいを買って電車に乗る。